

## 佳作

### クラリネット奏者を目指して

岩手県久慈市立長内中学校

3年 小向 未里愛

私がクラリネットを始めたのは、中学1年生のときでした。吹奏楽部に入り、先輩や先生に勧められて手に取ったのがきっかけです。最初は音を出すのも難しく、なかなか思うように吹けませんでしたが、少しずつ音を出せるようになり、音楽がとても楽しいことに気づきました。そして、音楽を通して人と心がつながることの楽しさを感じるようになりました。

クラリネットは、木の温もりを感じさせる深くて優しい音色が魅力です。明るい曲を吹けば、まるで語りかけるような音になり、悲しい曲を吹けば心に寄り添ってくれるような響きになります。クラリネットを吹いていると、自分の気持ちが音になって、聴いてくれる人の心に届いているように感じます。それがうれしいので、もっとうまくなりたいと思うようになりました。

普段の部活動では、仲間とのすれ違いやもめ事があったりして、うまく演奏ができない日もありました。

中学2年生の夏のコンクールのときは、自分の音に納得がいかず、泣いてばかりで周りの人に迷惑をかけてしまいました。そのとき、同じクラリネットの先輩が優しいメロディーを吹いてくれました。それは、まるで私を励ましてくれているかのような感じでした。先輩は何も言わずに吹き続けてくれましたが、その柔らかい音が私を元気にしてくれました。そして、自分の気持ちに寄り添ってくれるクラリネットが大好きになりました。このことをきっかけに、毎日自分の音に磨きをかけ続けています。

中学3年生になり、後輩が増えると、うまく吹かないといけないというプレッシャーを感じるようになりました。夏のコンクールでは、課題曲と自由曲の2曲を演奏します。しかし、練習時間は少なく、私は焦っていました。さらに、3年生なのでソロパートもあります。

「大丈夫だろうか。」

不安はありましたが、あ那时的先輩の音を励みに頑張りました。

「私も先輩のように、誰かの心に届くような演奏がしたい。」

その思いだけでした。部員みんなで助け合って練習した結果、本番では今までで一番の演奏ができ、目標だった金賞を獲得しました。とてもうれしかったし、ますます音楽が好きになりました。

この体験から、私は将来、音楽関係の仕事をしたいと考えるようになりました。

た。それは、音楽が人を感動させ、元気と勇気を与える力を持っていると実感したからです。実際、演奏会でお客さんが感動して涙を流している姿を見ると、「音楽ってすばらしいな。」「私も音楽で誰かを勇気づけたい。」と強く思います。だから、ただ演奏するのではなく、人の心に残るような音楽を届けられるような演奏家になることが私の夢です。

その夢をかなえるために、私は日々の練習を大切にしています。スケール練習やロングトーンは地味で地道な作業ですが、基本をしっかりと固めることが上達への近道だと信じて、毎日欠かさず取り組んでいます。自分で曲を録音して聴き返したり、プロの演奏を何度も聴いて学んだりもしています。

最近では、もっと本格的に学びたいという思いから、専門の先生に習いたいと思うようになりました。普段の練習では気づけない細かい癖や改善点を教えてもらえるだけではなく、音楽の表現力も広がると思います。先生に習うことは簡単ではありません。それでもクラリネットが好きだからこそ、本気で向き合ってみたいのです。

音楽の世界に進むことは、簡単ではありません。音楽大学を卒業しても、オーケストラの演奏家として就職できる人は卒業生の中で一人ということも多いような狭き門です。

でも、好きなことを仕事にできたら、どんなに幸せでしょうか。もちろん、楽しいことばかりではないでしょう。しかし、好きだからこそ、きっと乗り越えられると思います。そして、私の「好き」をみんなに届けることができます。だから、私は「好き」を大切に、夢を追い続けたいです。

今、私は部活動の開始時刻より早く音楽室に行き、プロが使う基礎本を使って、少しレベルが高い基礎練習に取り組んでいます。これからもクラリネットと真剣に向き合い、自分の音を磨き続けます。そして、夢に一步でも近づけるように、今できることに挑戦し続けます。